

魅力向上へ知恵と資金

TSUTAYAを展開するカルチャー・コンビニエンス・クラブ(CCC)が佐賀県武雄市から委託を受けて運営を始めた図書館が注目を浴びている。4月にオープンであるが、3カ月で前年1年の入館者を達成してしまったそうだ。前年比400%という大変な盛況ぶりである。図書の貸し出しも2倍になっているそうだ。私は現地に行ったわけではないが、インターネットで見ると、大変に魅力的な図書館である。カフェが入っており、書籍はすべて開架で、書籍に囲まれた素敵な空

伊藤 元重

機構大教授  
機関大教授  
研究員  
理事長  
総務

間だ。雑誌も販売しており、店内のソファやカフェで拾い読みをして、気に入ったら購入できるという。

CCCは東京の代官山で蔦屋書店という書店を展開している。東京の名所にもなるようなお洒落な店で、カフェやレストランも隣接

民間委託でにぎわう図書館

している。昼夜を問わず多くの人が来て、本に囲まれた空間を楽しんでいる。聞くところによると、武雄市の図書館はこの代官山の店がベースになっているようだ。

こう言っただけでは失礼になるかもしれないが、九州の小さな地方都市でも、官民が協力すればこれだけの施設が運営できるのだ。そして

それによって地元住民が受ける恩恵は大きい。

どの町でも、行政は貴重な資産を持っている。その土地の中心にある不動産、そしてかなりの額に

なる予算や人員―例えば図書館の予算や人員―などである。民間から見れば、そうした行政が持っている

る資産や予算は魅力的だ。これに民間の知恵と資金を組み合わせれば、素晴らしい施設ができ、そして地域住民が喜ぶサービスが得られる。

これは図書館に限ったものではない。学校、公民館、公園、役所の施設、公立病院、市民ホールなど、さまざまな施設やそこについて

た予算を、行政だけで運営するのはなく、民間の資金と知恵を入れて官民連携で運営する。

官民連携広がる可能性

官の組織だけで運営する施設には、魅力のないものが多い。そこに民間の知恵と金が入ると様変わりになることが少なくない。民

営化前の国鉄の駅は殺風景だった。そこに入っている店も国鉄の関連組織が運営する店だけだった。しかし、JRになってからは、駅の風景が大きく変わった。私の大学の側の上野駅でも、高級スーパーが出店したり、有名なレストランチェーンが出店したりしている。

民間の金と知恵が入ったからといって、鉄道駅としての公共性が

劣化しているわけではない。それどころか、民営化してからのほうが、多くの人が利用する公共の場としての駅の質は格段に高くなっている。

図書館の話に戻そう。どの市町村にも、その町の一等地にさまざまな公共施設がある。この公共施設を行政組織が独り占めしないで、民間の金や知恵を入れた官民連携組織に変えていくことができるだろうか。役所の敷地の一部にコンビニが入ってもよいし、学校の公設民営があってもよい。官民連携のアイデアはいろいろあるが、取りあえず地域の図書館の運営について再考してみるのはどうだろうか。素晴らしい図書館は多くの人を引きつける魅力的な存在である。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。